

東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会 第 1 回会議 議事要旨

開催日時	令和 6 年（2024 年）10 月 23 日（水） 15 時 00 分から 15 時 40 分まで
開催場所	鎌倉市役所本庁舎 2 階 全員協議会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員 吉田委員、菅原氏（柴田委員代理）、久保田委員、大森委員、牧田委員、中島委員、兵藤委員、雨宮委員、田島氏（新津委員代理）松尾委員、千田委員 ● オブザーバー 春山課長（文化庁文化経済・国際課）
事務局職員	東アジア文化都市事業担当 能條担当部長、小林担当部長、勝担当課長、齋藤、奈須、中野
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会挨拶 2 委員紹介 3 審議事項 (1) 各規約・規程について (2) 令和 6 年度事業計画書（案）・令和 6 年度収支予算書（案）について 4 その他（事務連絡）
配付資料	<p>資料 1 東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会規約（案）</p> <p>資料 2 東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会謝金及び旅費支給規程（案）</p> <p>資料 3 東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会事務局規程（案）</p> <p>資料 4 東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会会計規程（案）</p> <p>資料 5 令和 6 年度事業計画書（案） 事業計画書別紙（事業スケジュール）</p> <p>資料 6 令和 6 年度収支予算書（案）</p>
議事概要	<p>審議事項（1）各規約・規程について 資料 1 から 4 に沿って、事務局から内容説明。</p> <p>○主な質疑 (委 員) 謝金は受け取らないということも可能か。 (事務局) 辞退も可能。</p> <p>○採決結果 全会一致で可決</p> <p>実行委員会規約第 5 条に基づき、松尾委員長から、次のとおり役員を指名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 副委員長 千田委員 ・ 監事 兵藤委員 <p>実行委員会事務局規程第 2 条第 3 項及び第 4 項に基づき、松尾委員長から、次のとおり事務局長及び事務局次長を指名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局長 能條担当部長 ・ 事務局次長 勝担当課長 <p>審議事項（2）令和 6 年度事業計画書（案）・令和 6 年度収支予算書（案）について</p>

資料5及び6に沿って、事務局から内容説明。

○主な質疑

(委員) 資料5記載の事業とスケジュール記載の事業が一致しないが、例えば「連携事業」とはどのようなものか。

(事務局) 「連携事業」は市が主体で実施する事業。事業計画書には、実行委員会が主体で実施する事業を記載している。

(委員) 今までどのような計画で実行し、鎌倉市がどう参画しているのか。また、国内の他の都市との連携はどのようになるのか。

(事務局) 6月末から7月末にかけての文化庁の募集に応募し、8月中旬に内定し正式決定した。今後、中国、韓国の友好都市との実務担当者会議や文化庁とも足並みを揃えて事業を作る中で、他の国内都市との連携も並行して考えていく。

(委員) 新たに何かを企画するには準備の時間が非常に短いと感じる。鎌倉市の開幕が5月だと、この半年の間でいろいろな事業を組み立てていくのか。

(事務局) 過去の開催都市は、概ね10月から12月にコア期間を設定して集中的に事業を組み立てている。今後、事業計画に沿って、年内に周知・PR関係の準備を行い、皆様のご協力をいただきながら年明け1月以降に東アジア文化都市事業の広報周知を開始したい。また、既存事業にも光をあてていきたいと考えており、市民や関係団体の皆様の御協力が非常に重要なため、今後、各団体へ来年度の予定などをお伺いする中で、全体像を作りつつ、実行委員会にも諮りながら進めていきたい。

(委員) 毎年実施している事業を東アジア文化都市としての切り口を新たにテーマとして設け、提案すれば該当するという事か。

(事務局) 鎌倉の中で活躍されている多くの団体に取り組んでいる文化事業で、東アジア文化都市の切り口を加えて実施していただける事業に対し、費用の助成、ロゴマークの使用やホームページへの掲載により、協働で東アジア文化都市事業としていく助成事業や認証事業を作ろうと考えている。

(委員) 交流事業の件で、今回は中国がマカオ特別行政区、湖州市、韓国が安城市ということだが、この都市は毎年変わるのか。

(事務局) 毎年変わる。

○採決結果 全会一致で可決

その他、委員からの意見等は次のとおり。

(委員) 実行委員会は必ず対面による開催か。

(事務局) オンライン、書面含めて柔軟に対応する。

(委員) 委員の関わり方について、4回の委員会の開催のほか、個別の事業の取り組みへの関わりはどのように考えたらよいか。

(事務局) 今後、中国、韓国の各都市との協議により事業のスケジュール、全体像を見極めながら、適宜、委員の皆様と相談させていただきながら事業を組み立てていきたい。市民の方には「やってよかった」と思われる事業にし

	<p>ていきたいので、周知等の面でもぜひ皆様の力をお借りして盛り上げていきたい。</p> <p>(委員) 団体員が市民と同じタイミングで情報を知ることがないよう、できる限り早めに情報を共有してもらいたい。</p> <p>(事務局) 年間のスケジュールなど皆様の情報も聞きながらこちらの情報も共有させていただき、連携できる体制を作らせていただきたい。</p> <p>(委員長) 1年の事業期間が過ぎたら終了ではなく、事業を通じて、これまでつながっていなかったような関連団体ともしっかりと結びつきを持ちながら、事業が終了した以降も連携を継続していくということを意識して進めていきたい。今までも皆様が盛り上げていたということは前提だが、関係各所がこの1年間を通じて連携を深め、より一層鎌倉から芸術・文化・歴史を発信できるようになることを目指したい。</p> <p>(委員) 事業の正式な名称は何か。</p> <p>(事務局) 事業の名称は、「東アジア文化都市事業」になる。実行委員会の名称は、「東アジア文化都市 2025 鎌倉市実行委員会」である。</p>
--	---